

平成 28 年度フィリピン渡航について

箕井 梨乃（電気電子工学科 5年）

渡航地:フィリピン共和国 マニラ, パンパンガ州



今回、私たちはフィリピンに渡航してきました。私は三回目ということもあり、フィリピンに到着したときには日本とは違う乾いた暑さ、フィリピン独特の匂い、そしてどこからともなく聞こえてくる車のクラクションの音、この懐かしさにどきどきしました。また、出迎えてくれたフィリピンのスタッフ達とはお互いに成長している姿に驚き、久しぶりの再会を喜び合うことができました。

今回の活動場所はフィリピンの中でもかなり貧しいところで靴を履いてない子供や好きなものを自由にお買えない子、学校に通えていない子が大勢いました。年に一回大きな水田からとれた作物の収入だけで自分たちの生活をしていかなければならないのに、日本から来た私たちに本当に特別なときにか食べられないお肉やお魚をたくさん振る舞ってくれました。毎回行く度に思うのですが、フィリピンの方は自分がどんな状況であっても笑顔で明るく、英語が上手く話せない私たちにもハイタッチをしてくれたりして、とても楽しい人が多いです。その姿に私は何度も心打たれ、自分は恵まれた環境の中で生きているのかと認識させられます。フィリピンの方たちに自分たちが修理した足踏みミシンを贈ることで少しでも生活の役に立っていることを心から嬉しく思うと同時に、足踏みミシン部を本当に誇りに感じました。



現地の元気な子どもたちと

そして、今回の渡航において私がやらなければならなかった事がありました。それは、今まで自分が学んできたことや感じてきたことを、後輩たちにも経験してもらいその気持ちを受け継いでいってもらうことです。自分が修理したミシンを海外に贈り、自分自身が現地に赴いて実際に現地の人と交流

をする，というのはめったにできない経験です。現地の方が足踏みミシンを大事に使っているのか，自分たちが行っている活動が本当に人の役に立っているのかを感じるためには現地へ行ってみないとわかりません。

実際に現地の人達が涙を流しながら感謝をしていることや，身振り手振りで必死に会話をする事で自分自身の成長とともに言葉では言い表せない感動や喜びを味わうことができると思っています。

今回初めて現地へ行く後輩が多く，一緒に行動するなかで一人ひとりが有意義な時間を過ごしたならばとても嬉しく思います。

最後に，フィリピン滞在中にお世話になった大分県フィリピン友好協会吉武ロドラさんをはじめ，現地のスタッフさん，田中先生，岩本先生，そして足踏みミシン部の部員全員に感謝を伝えたいです。私にとって，今回が足踏みミシン活動として最後の渡航でもあり，本当に深い思い出となる一週間でした。本当に楽しかったです。

これまでのフィリピンでの足踏みミシン活動が私を成長させてくれました。この活動の機会を与えていただいた岩本先生，本当にありがとうございました。



大分高専から贈呈した足踏みミシン

平成 28 年度足踏みミシン部フィリピン渡航感想文



梅本 恭平(電気電子工学科 3年)

渡航地:フィリピン共和国 マニラ, パンパンガ州

今回のフィリピン渡航は私にとっては2回目の渡航となりました。今回の渡航では、前回行ったところとは違い、マニラから北へ約100キロのところに位置するパンパンガ州へ渡航しました。前回もかなり貧しい地域へミシンの修理の仕方を教えに行きましたが、今回の場所もかなり貧しい地域で、川には生活排水が垂れ流され、野良犬が家の中で寝ていたり、余った食事や生ごみを漁って食べていました。また、今回レクチャーを行った村では、農作物が育たない時期には村の収入はゼロになってしまい、生活がとても苦しく、自分たちの食べる食料すら無くなるということを現地の人から聞いたときは衝撃を受けました。しかし、今回ミシンを送ったことで、これからはレディースのショートパンツや雑巾などを作ることで月100ペソ(日本円で約250円)程の収入が得られることを期待していました。日本人からするとこれだけで生活できるとはとても思えませんが、村の人はこの収入が得られることで生活がとても楽になると語っていました。



現地でのミシン修理の様子



ミシンに集まる子どもたち

ま

シンの修理が終了したあとは、現地の子どもたちに日本から持ってきたお菓子を配ったり、シャボン玉で遊んだり、風船を作ったりして現地の子どもたちとの交流も深めました。私たちが現地に到着した時はちょっと警戒したような様子でしたが、遊ぶ頃には打ち解けることができました。私も子どもたちと風船でバレーボールをしたり、サッカーをしたりして遊びました。他にも縄跳びをして遊んだり、現地の子供達の間で流行っているゲームをしたりして遊びました。子どもたちと一緒に元気いっぱい大はしゃぎして遊ぶこと

た、ミ



学生と現地の子ども達



学生と現地の子供達 2

ができてとても楽しかったです。

そして、今回はパンパンガ州以外にも昨年送ったミシンの視察ということで、マニラのスラム街の作業場にも訪問しました。そこは犬の糞尿がそのままにされているようなお世辞にも良い環境と言えるような場所ではありませんでした。そんなスラム街の道をさらに奥へ入っていくと、ミシンの作業場がありました。6畳ほどの部屋の中に4台の足踏みミシンが並べられており、一人当たりの時間が決められた時間制で、交代しながらミシンを使っていました。収入も歩合制ではなく、自分が作った分がそのまま自分の収入になるということでした。そのため自分の時間内に出来るだけ多くのものを作ろうと私達と話している間も手を休めることはありませんでした。彼女たちはそこで学校に納品する雑巾を作ったり、持ち込まれた衣類の補修をしたり、ある女性は縫製の技術を認められて学校の制服の製作もしていました。旦那さんが病気で病院にも行けずに困っていた女性も、ミシンの収入のおかげで、旦那さんを病院に連れて行くことができるようになり、子供を学校に通わせることができるようになったと話していました。

また、個人的に嬉しかったことですが、この作業場にあったミシンの一台は私が修理して贈ったミシンでした。驚きでしたが、自分の修理したミシンが元気に現地の人の元で活躍しているのを見てとても感動しました。これからも一層ミシン修理を頑張っていこうと思った瞬間でもありました。



作業場付近のスラム街



ミシン作業場の風景

今
フィ

ン渡航は、初めて渡航した時とはまた違った感覚や体験ができました。ミシンのこと以外にも現地の人とのコミュニケーションをとったり、遊んだりすることで改めて英語の大切さもわかりました。今回良かったのは前回フィリピンへ渡航した時よりも英語で現地の人や現地スタッフといっぱい喋ることができたことです。そして、前はまた来たいなと思っただけでしたが、今回日本に帰ってから、フィリピンの他、東南アジアの国々のまだ貧しい人たちの役に立つような仕事に就きたいと思うようになったことです。そのためにも英語をこれからも頑張ろうと思いました。

回
リピ

最後になりましたが、今回またフィリピンに渡航することができたのは、大分県フィリピン友好協会会長の吉武ロドラさんや顧問の田中先生や岩本先生、現地スタッフをはじめ、多くの方が支えてくださったおかげだと思っています。この普段ではできない経験をさせてもらったことを本当に感謝しています。今回もいい経験をさせていただき、ありがとうございました。これからも今まで以上にミシンボランティア活動を頑張っていきたいと思っています。

足踏みミシン修理・贈呈事業 参加報告書

手嶋 萌（都市・環境工学科 2年）

渡航国：フィリピン共和国 場所：パンパンガ州



1. ミシン活動を振り返って

私は今回、初めてこの活動に参加しました。普段は部室で足踏みミシンを修理しているときは、正直、私たちが修理したミシンが本当に人の役に立っているのだろうかと不安に思っていました。現地の方々が贈呈したミシンを使ってくださっているところを実際に見て、私たちの活動の意義はしっかり届いている、ということを実感できました。

また、ミシンを使い作製した縫製品を売って得た収入で毎日ご飯が食べられる、旦那さんの病気の治療ができる、というお話を聞いたときには胸が熱くなりました。

現地のお母さんたちはとても慣れた手つきでミシンを動かしていて、私には作れない複雑な形の物も作っていました。また、以前贈呈したミシンを使って修理や掃除の仕方を伝えましたが、そのミシンもよく整備されていて、大切に使って下さっていることがわかり、とても嬉しかったです。日本では使われなくなってしまったミシンですが、フィリピンで大切に使用してもらえて、本当に良かったと思います。

現地の方との交流会では、子どもたちと一緒にシャボン玉を吹いたり竹とんぼを飛ばしたりして遊びました。現地のお母さんたちが、私が日向に居ると「暑いから日陰においで」と声をかけてくれた時は本当に嬉しかったです。

私の、今回の一番の課題は英語が出来なかったことです。特に整備の仕方を伝える活動では、現地の方に質問をされたときにうまく説明ができず、悔しい思いをしました。なん



昨年に贈呈した足踏みミシン

となく伝われば良いだろう，と軽い気持ちでフィリピンに行ってしまいました，実際に話す場面になると簡単な単語ですら出てこなくなっていました。他にも色んな場面で先輩に頼りきりになってしまったので，次回参加するときのためにも，また，将来のためにも，英語を使いこなせるようになりたいので，今までの甘い気持ちを捨て，努力しようと思います。

2. 感想

フィリピンで出会った方々は，子どもからお年寄りの方まで皆さん明るくて，気さくに話しかけてくれました。初めての海外で不安もありましたが，フィリピンの皆さんのおかげで不安も吹き飛び，楽しい時間を過ごすことができました。また，異文化に触れることができ，自分の視野が広がったように思います。とても良い経験になりました。

また，実際の現地の様子を見ることで，私たちが修理したミシンが人の生活に大きく関わっていると知ることができました。これからミシンを修理するときには，今まで以上に気持ちを引き締めて取り組みたいと思います。

日本に住んでいる私たちにはあたりまえにできていることでも，世界には，それができないほど貧しい生活をしている人がたくさんいます。私にできることは少ないですが，そんな人たちが少しでも安定した生活を送れるように，これからも多くのミシンを修理していきたいです。



フィリピンの子どもたちと